

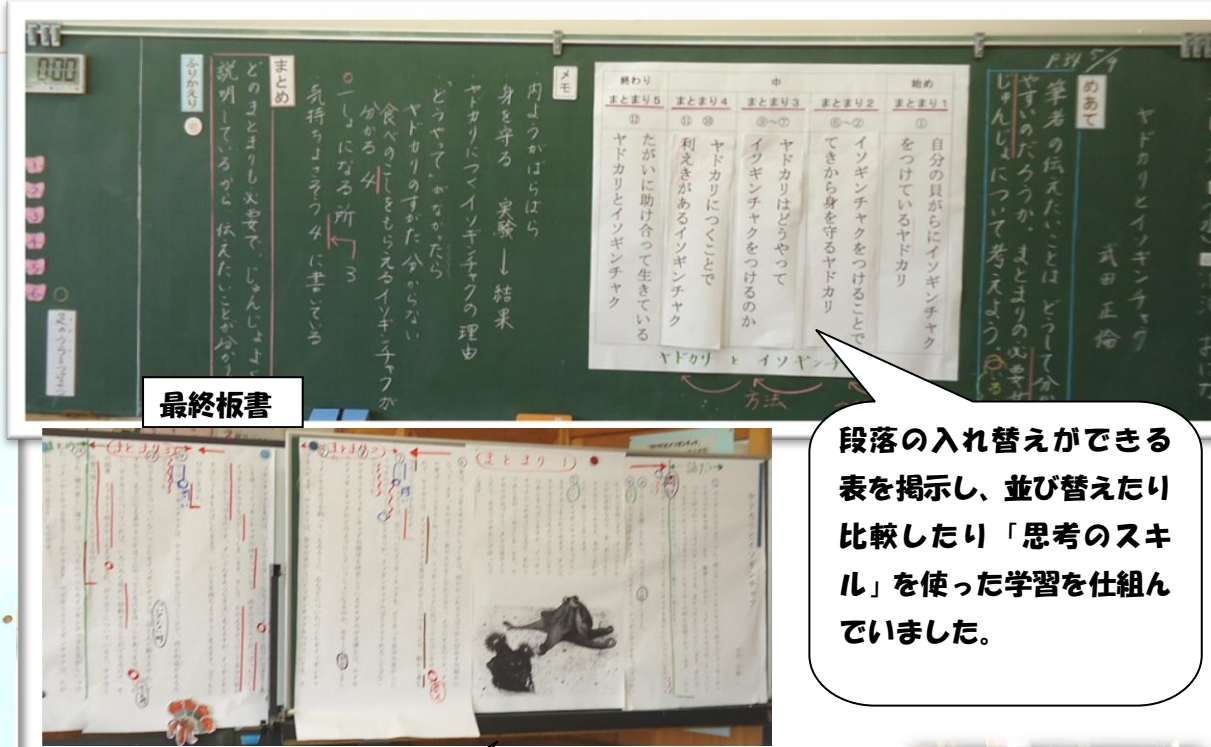
今年度1回目の授業研究を行いました。授業者は4年2組の才市美奈先生です。「ヤドカリとイソギンチャク」という説明文は、段落相互の関係が分かりやすく、単元の目標の「段落どうしの結びつきを考えて読み、文章のまとまりを捉える」のに適した教材といえます。また、内容も生き物の相互の関係が共生になっており、子どもたちの関心を引く説明文です。昨年度もこの時期に、山岡先生がこの説明文の授業を公開してくださいましたが、昨年度は6/10時間目、今年度はその1時間後の授業となっています。

単元名：「説明のまとまりをとらえよう～びっくり！生き物リーフレット交流会」
教材名：「ヤドカリとイソギンチャク」(東京書籍4年上)
提案授業：4年2組 才市 美奈 教諭
身に付けさせたい資質・能力：段落と段落の結びつきを考えながら読み、説明のまとまりをとらえる力

学習の流れ

- 「ヤドカリとイソギンチャク」(全9時間)
 せつ明のまとまりをとらえて読み、びっくり！生き物リーフレットでしようかいしよう
- 1 学習のねらいをつかみ 計画を立てよう (1)
 - 2 2つの関係について読もう (5)
 - 3 びっくり！リーフレットで 交流しよう (3)
- ・今までの力は…
 ○だん落の内よう ○始め・中・終わり
 ○要やく(大事な言葉や文を短くまとめる)
 ○書いていることを整理する
 ○並行読書
- 2 2つの関係について読もう (5)
 ①始め・中・終わり(見出しをつけよう)
 ②ヤドカリがイソギンチャクをつけている理由とつける方法
 ③イソギンチャクがヤドカリについている理由
 ④まとめの段落の要点をまとめよう
 ⑤せつ明のまとまりを考えよう
- 3 びっくり！リーフレットで 交流しよう (3)
 ・自分の選んだ本でリーフレットを書く
 ・友達と交流する
 ・単元の学習をふりかえろう
- ★だん落の結びつきを考えながら読み、せつ明のまとまりをとらえる力

並行読書



最終板書

段落の入れ替えができる表を掲示し、並び替えたり比較したり「思考のスキル」を使った学習を仕組んでいました。

教科書を全文掲示をすることで、叙述に戻って思考したり、段落のつながりが明確になったりします。



グループに1つ、黒板掲示と同じものを持たせたことで、段落を入れ替えたり除けたりしながら、対話を通して考えを深めている児童の姿がありました。

授業者のリフレクションシートより

- 資** 1時間に身に付けさせたい力とまとめ(ゴール)からめあてを決め、学習活動を展開していくこと。
 国語では、「読むこと」の活用に関わりつつ単元の言語活動(ゴール)を設定し、単元計画を立てていくこと。
- 主対深** 自分の力を実感できるように具体的な振り返りを書かせ紹介し全体に広げること参考にする。
- 見** 言葉に着目して説得力のある発言を取り上げ、評価していくこと。



並行読書に取り組むにあたり、図書館教育担当の勝瀬先生がこの写真のような表を作成してくださいました。自分が読んだ本・友だちが読んだ本が分かるようにひと工夫されています。読んだ本を△：あまりよくなかった○：よかった◎：これに決めた！の3つのどれかを表に書く込むことで、読んだ本の評価が振り返られることや友だちがどんな本を読んだのかもすぐ分かり、対話のペアを意図的に仕組む時などに活用できそうです。



研究主題の副題にある「質の高い言語活動」を追究していくために、今年度は新たな5つの視点で授業を参観し、研究協議を行います。研究協議で明らかになったことを5つの視点でまとめたものを紹介します。

1. 育成すべき「資質・能力」を付けるために最適な言語活動であるか。
 ▼「リーフレット」を書いて交流というゴールは、「資質・能力」を育むのに適切であると言えるのか。「書く」ことで評価しやすくなるが、新学習指導要領の言語活動例を見ると、「説明したり意見を述べたりする活動」とある。「資質・能力」から考えると、「書く」のは一段レベルの高い活動である。今までの言語活動を再度考え直し、資質・能力に合った言語活動を設定していくことが重要。
 ▼読むことの汎用能力を付けるために、他の説明文を適用問題的に扱ってみるのも有りではないか。
3. 本時の目標が達成できたか。
 ○まとまりの必要性や順序について、グループで活発に話し合いができていて、目標は達成されていた。
4. 「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は実現していたか。それはどんな事実からか。
 ○問い返しができていて、グループでのレベルの高い対話の場面がみられた。
 ○並べ替えができる表を児童にも持たせ、思考スキル(並べ替え、削除する)を使った学習の姿が見られた。この手立てが対話に効果的であった。⇒▼番号や色などの工夫でさらに改善するとよい。
 ○友達の意見を聞いて自分にはなかった考え(新しい気付き)が生まれ、そのことを「振り返り」に記述できている児童がいた。→主体的な学びへ
 ▼「めあて」を段落の結びつき・つながりに目が向くめあてに改善する。
 ▼「まとめ」を資質・能力ベースに改善していく必要がある。
 ▼グループでの対話は盛り上がっていたが、全体で共有する際、発表の順序を意図的にしたり叙述に戻って説明させたりするとよかったのではないか。
5. 「言葉による見方・考え方」を働かせた児童の姿は見られたか。
 ○教師の手立てや発問が有効に働いた場面では、児童は言葉に着目して根拠を明確にしながら友だちに必死に説明する姿が見られた。

後日、4年1組で同じ所の授業を見させていただきました。小島先生は授業を少し改善して「段落と段落のつながり」に目が向くように発問されていました。「段落のつながりはこれでいい。」と答えた児童がその理由として、「この説明文は、分からないことが解決すると、次に知りたいことが書かれていて、問いから次の問いへつながる文章になっている。」と説明していました。私はなるほど！と感心したことでした。文章の中のポイントになる言葉を押さえて「たとえば・・・」と上手に説明していました。このような姿が目指している児童の姿だと思います。

才市先生、国語の提案授業ありがとうございました。昨年度と学習指導案の型式が少し変わっているのですが、私の提案が遅くてご迷惑をおかけしましたこととお詫びします。そんな時でもすぐに対応して下さった才市先生にトップバッターをやっていただいて、本当に良かったですと思っています。

次の研究授業は1週間後、5年1組で行います。池谷先生 よろしくお願ひします。